

入居者インタビュー



今回お話を伺った
小谷 純子さん

平成20年にご入居された小谷純子さん（83歳）にインタビューさせていただきました。

「結婚しなくていい」が一転、素敵なご主人との出会い

弟が生まれた翌月に父が亡くなり、母が銀行で働きながら女手ひとつで、私達3人の姉弟を育ててくれたのです。大変な苦労だったのでしょうか。母は口癖のように「結婚だけが幸せではない。女も手に職を持ち、自立できるようにしなければ・・・」と言い続け、私の結婚にはことごとく反対しましたが、銀行員時代の上司と縁があり、母も昔一緒に仕事をした事もあって「あの人は気持ちのとてもきれいな人だから」と賛成。何度もプロポーズされた後、69歳で結婚しました。30年前から知っている、とても優しく背が高い素敵な人でした。主人は既に仕事を退職し舞鶴で暮らしていたので私も仕事を辞め、何も無い田舎での結婚生活が始まり、庭で花や野菜を作り穏やかに夫婦で暮らしていたのです。母の口癖のお蔭で、主人に巡り合うことができ、

本当に良かったと思います。

ご主人を失ってから、縁あって生まれ故郷に

結婚生活10年たった頃、主人が脑梗塞で寝たきりになり、半年間入院したのち亡くなりました。その時は葬儀・法事・財産分与・不動産の処分など未経験な事柄に追われ悲しんでいる間がなく夢中でしたが、一人より二人の穏やかに過ごした日々が懐かしく残念で口惜しくなりません。いつまでも二人でいたかった・・・必然的にどこか施設を探すことになったのです。頼りになるのは枚方に住む義妹（亡くなった実弟の嫁）だけでしたが、自分のことのように一生懸命探してくれたおかげで、ここに入居を決めることができました。元々、里の近くで生まれ育った為、土地勘もあり不安はなかったですね。義妹や甥達ともよく行き来しています。でもまさか、また守口に戻って来れるなんてね。

「いつも前をむいて、自然流」が私の motto

結婚後やめていたコーラスは、里に入居後また誘われ再開しました。7月に所属する合唱団の50周年記念公演を、今春建て替えられた大阪フェスティバルホールで小林 研一郎さんの指揮のもと、2700人の観客の中、テノール

の錦織 健さん外有名なソリストと同じステージに総勢370人で歌ったヴェルディ「レクイエム」は、言葉にならないほどの感動でした。コーラスは、私の元気の源です。無かったらきつと人生がつまらないものになっていました。これからもコーラスを続けて、年に一回は大きな舞台に立つことが目標です。私はこれまで人生に無理しないで、自然の流れに乗って来たように思います。主人と結婚したのもそうだし、主人が亡くなり生まれ故郷に戻って来る事になったのも。今は終の棲家と思える里に入居でき、安心して楽しく暮らせていることに本当に感謝しています。私の行動力がまだあるうちに主人が導いてくれたのかも知れません。主人の愛情にも感謝です。



大阪フェスティバルホールでの50周年記念公演

人生の出会いを率直に受け入れられるって凄いですね。自然体で生きてこられた小谷さんに拍手喝采！これからもお元気で舞台に立ち続けてください。